



(標題：中野雄一 元病院長)

病院長就任の挨拶

畠山 勝義



平成19年4月1日より新潟大学医歯学総合病院の病院長に就任致しましたので、挨拶を申し上げます。

7月16日の新潟県中越沖地震から早2か月以上経過しましたが、まずは今回の地震で被災された皆様にお見舞いを申し上げますとともに、1日も早い復興を祈念申し上げます。当病院としまして、早い時期から医療支援を行いましたので、この場をお借りしまして簡単に御報告します。災害時の医療支援には、①被災した地区の医療施設への支援、②避難所における診療および巡回診療、③被災地区医療施設からの患者さんの搬送による医療、などに分けることができます。具体的には、①は柏崎市にある刈羽郡総合病院（16診療科、440床）への医療支援、②は前半は柏崎市にある元気館での診療、後半は西山地区のいきいき館での診療およびそこを基点とした巡回診療、③は、結果的には3名の患者さんが搬送され、それぞれ治療を受けております。地震は午前10時13分に発生しましたが、当病院には被害がないことを確認し、約1時間後には災害対策本部を設置しました。そして、午後0時30分には第1陣の医療支援チーム（医師3名、看護師1名、事務1名）を、午後1時49分には第2陣を、午後3時には第3陣（ヘリコプターを要請）を、いずれも刈羽郡総合病院へ出すことができ、被災直後の医療支援を行いました。その翌日よりメンバーに薬剤師を加えたチームも避難所（元気館）に送り、診療を行いました。このような医療支援は8月16日までちょうど1か月間行ったことになります。これらの医療支援は今年度中

に報告書として纏める予定です。このような災害に対する医療支援においても、病院の色々な職種の方々と協力しながら（これもまさに「和」であると思います）、遂行できたものと感謝している次第です。

さて、本院は高度で先進的な医療を提供する特定機能病院として新潟県を中心に、日本海沿岸地域における中枢医療機関としての役割を担っております。また、本院は医学部および歯学部（歯学部）の学生を含めた多くの医療人の教育・研究の場となることも目的の一つになっております。具体的な本院の理念は、「生命と個人の尊厳を重んじ、質の高い医療を提供するとともに、人間性豊かな医療人を育成すること」であります。この実現を目指して職員ともども一丸となって努力していきたいと考えております。平成19年1月から地域がん診療連携拠点病院、平成19年度から新潟県難病医療拠点病院として指定を受け、また平成19年5月からより高度で充実した看護を行うため、これまでの10対1から7対1の看護体制となりました。

本院は平成18年1月より新病棟が完成して稼働しており、快適な空間を提供する病棟になりました。現在は新中央診療棟を建築中であり、平成21年11月を開業目標にしております。この新中央診療棟の完成から時間をおかずに、新外来棟の第4期工事を計画したいと考え、現在まさに検討中であります。

以上、今回の中越沖地震に対する本院の医療支援と、本院の現況を述べて、挨拶に代えさせていただきます。

新潟県中越沖地震における災害医療支援

平成19年7月16日午前10時13分 マグニチュード6.8の地震が柏崎市、刈羽村などを襲いました。「新潟県中越沖地震」。壊滅的な被害をもたらした「新潟県中越沖地震」からわずか2年8か月の出来事でした。

激甚災害など緊急事態発生時に迅速に出動する災害派遣医療チーム（DMAT：Disaster Medical Assistance Team）が厚生労働省の政策として全国に整備され始め、本県でも災害拠点病院を中心に活動を開始しています。平成17年4月のJR西日本福知山線脱線事故で瓦礫の1両目から生存者3名が救出された報道でDMATという言葉をはじめて耳にされた方も多いのではないのでしょうか。今回の中越沖地震でも全国各地からDMATが柏崎市を中心に集結しました。

当院でも地震発生直後より院内に災害対策本部を設置。直ちに最大被災地柏崎市の基幹病院である刈羽郡総合病院に災害医療チーム3編成（医師11名、看護師2名、事務2名）を派遣しました。うち1編成は新潟県及び仙台市消防局の協力を得てヘリで空路現地入りしました。全国のDMATと協力し、ガス・水道の使えない病院のロビーに応急の診療所を設置して、次々に運び込まれて来る怪我人の治療、また重症患者のヘリ・救急車による域外搬送などに当たりました。



ヘリでの派遣

一般にDMAT活動は災害発生48時間の超急性期医療を想定しています。しかし、実際の地震災害医療は48時間では終わりません。今回の地震では1万2千人の被災者の方々が101か所の避難所に避難されました。当院では柏崎保健所長率いる現地災害医療本部に常時

医師を派遣し、現地と大学病院との連携を密にとりながら、刈羽郡総合病院への医師派遣、柏崎市内避難所での救護所設置、避難所巡回診療などを行ないました。水道が使えない状況の避難所での集団生活では、食中毒などの感染症予防・衛生対策が重要です。

また、ボランティアの方々による体操指導など、高齢者の方が避難を契機に寝たきりにならないような様々なイベントが行なわれました。柏崎市内の医療機関がほぼ復旧した地震後2週間目からは、元々医療過疎地域であった西山町の避難所に救護所を設置し、また刈羽村の巡回診療も日赤より引き継ぎました。復旧から復興への災害医療派遣はほぼ1か月に渡り、現地災害医療本部が解散するまでに当院から延べ230名以上の職員が全国の皆さんと力を合わせて災害医療支援を行ないました。今回の地震で残念ながら11名の尊い命を失いましたが、中越地震からの教訓を生かした今回の災害医療で、避難に伴う二次災害で失われた命が無かった事が、せめてもの救いでした。

災害はいつ何時、どこで起こるかわかりません。図らずもこの3年間に二度の大地震を経験した当院が、災害医療についてノウハウや問題点をきちんと全国に発信してゆくことが、全国から新潟県に集結したDMAT支援に対して今後当院が果たすべき責務であると考えています。また、災害時の医療は、行政や医療機関だけでは成り立ちません。今後とも当院の災害医療活動にみなさまのご意見、ご理解とご協力を賜りたく、何卒宜しくお願い申し上げます。

（第二外科 高橋 昌講師）



避難所元気館（柏崎）にて

中央診療施設紹介 ③

生命科学医療センター輸血・再生医療部門

生命科学医療センター輸血・再生医療部門は輸血・細胞治療室と細胞プロセッシング室の2つの部門から成っています。輸血・細胞治療室は、従来の輸血部に相当する組織で、血液型検査や交差適合試験、不規則抗体検査などの輸血関連検査や輸血用血液製剤、自己血、末梢血幹細胞、臍帯血などの採取・保管・管理・払い出しを行っています。一方、細胞プロセッシング室は近年注目を浴びている再生医療を実践する部門として設立されたものですが、ここではその内容を中心に御紹介します。

細胞プロセッシング室は+15ヘクトパスカルの陽圧の無菌室で、内部に2台の安全キャビネットと7台の細胞培養器を備えています。作業者は部屋の清浄度を保つために無塵衣に着替えてから入室し、患者さんから採取した再生医療用の細胞を無菌的に培養・増幅し、治療用の細胞を作成しています。培養中の細胞が細菌汚染などを来さないように、無菌室中の浮遊微粒子数や浮遊細菌、附着細菌などの環境測定も定期的に行っ

ています。現在、培養を行っている細胞は骨髄（主に歯周病が対象）、口腔粘膜（口腔癌、舌癌などが対象）、及び赤芽球（将来赤血球とな

る骨髄中の細胞を培養し閉塞性動脈硬化症などの患者さんへの血管再生医療を行う）の3種類ですが、皮膚移植（尋常性白斑が対象）を目指して表皮細胞の培養訓練も行っています。

自分の細胞を少量採取し、培養・増幅して再生医療用の細胞とする時代が近づいています。当部門では職員一同その実践に向けて日々努力していますので、どうかよろしく御願います。

（生命科学医療センター輸血・再生医療部門

布施一郎准教授）



病気の基礎知識

③

骨粗鬆症の予防は若いうちから心がけましょう

骨粗鬆症は骨が脆くなり、骨折を引き起こす病気です。日本では骨粗鬆症の患者さんは1000万人以上といわれておりますので大変身近な病気でもあります。ちょっとしたことで骨折してしまう、一回骨折を起こした後、次々に骨折を起こしてしまうなど、どうしてこんなに骨が脆いのか、今後も骨折するかもしれないと心配される方も多く見受けられます。確かに脊椎の骨折、股の付け根（大腿骨頸部）の骨折では、痛みが出て、歩行などができなくなります。さらに脊椎骨折では骨がつぶれてしまいます。背骨の骨のつぶれは元には戻りませんので身長が低くなったり、背中が丸くなってしまいます。若い時に比べて身長が4cm以上縮んだ方は気づかないうちに骨粗鬆症による骨折が起こっているのかもしれません。

骨粗鬆症あるいは骨折を起こしやすい方は「女性である方、痩せ型の方、ご家族に骨粗鬆症の方がおられる方、過度のアルコールを飲まれる方、以前にすでに骨折を起こしたことがある方、現在、喫煙されている方、数回以上のダイエットを経験された

方、ステロイドを3か月以上服用している方」などです。心当たりがある方は一回「骨の健康診断（X線検査、骨密度測定など）」をされてはいかがでしょうか？ 自分の骨の状態を知っておくことは大切です。大学病院には最新式の骨密度測定器があり、数分で測定できます。骨粗鬆症の予防は骨をしっかりと丈夫にすることです。運動、食事そして必要な場合には薬も有効です。また骨は成長期のうちに大きくしっかりと作り上げることが大切です。若いときに骨がうまくできていないと年齢を重ねてから骨粗鬆症になりやすいと考えられています。高齢者の方だけではなく、ご家庭では若い方、成長期の子供さんの骨の健康管理にも気をつけていただきたいものです。健康で長生きを目指すにはまず丈夫な骨作りからですね。

骨粗鬆症に基づく骨折が少しでも減少し、高齢者のADL、QOLの維持・向上につながり、ひいてはサクセスフルエイジングの達成を願うものです。

（整形外科 遠藤直人教授）

シリーズ

患者様のご意見に
お答えします

中央診療棟の建設について



本院の再開発計画（第Ⅰ期～第Ⅳ期）も第Ⅰ期西病棟、第Ⅱ期東病棟が完成し、現在、病棟や渡り廊下からよく見えますが、西病棟南側に、第Ⅲ期中央診療棟の建設を進めています。

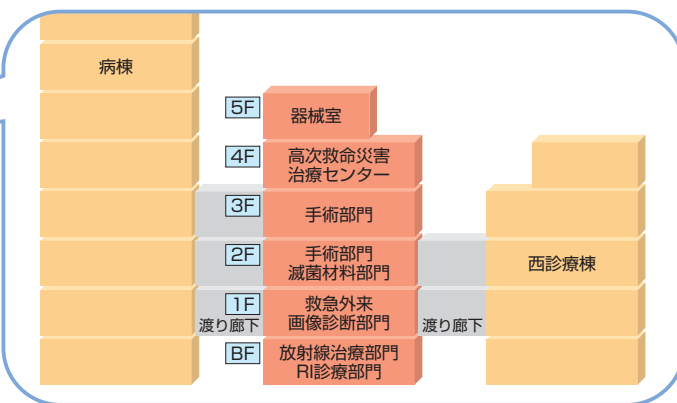
中央診療棟は、手術部、放射線部等大学病院における高度先進医療を担う中核的施設としての機能に加え、本院が有する豊富な人的資源と、高度な診断・治療能力を最大限活用し、新潟県民250万人、周辺地域を含めると約300万人の救急医療の“最後の砦”としての

使命を果たすことを、目的として「高次救命災害治療センター」を設置し、高度で効率的な、3次救急医療体制の構築を計画しています。

また、この建物は、地震対策に最大限配慮した免震構造で、地下1階、地上5階、延面積11,500㎡の規模をもち、完成は平成21年4月、移転・開院は同年11月を予定しています。

これに伴い、騒音、振動等ご迷惑をおかけしますが、抑制に最善をつくしながら建設を進めておりますので、ご理解、ご協力をお願いします。

（再開発整備計画室長）



病院周辺クリーンデーについて

本院では、毎月最終金曜日を「病院周辺クリーンデー」とし、朝8時15分から、医師、歯科医師、看護師、コ・メディカルスタッフ及び事務職員が、病院周辺の美化にあたっております。開始当初に比べ、病院周辺に投棄される空き缶・紙ゴミ等は減少しており、本取組が一定の成果を上げていると考えられます。しかしながら、本院は平成18年12月から敷地内禁煙を開

始しておりますが、病院周辺にはまだ煙草の吸い殻が目立ちます。この取組を通じて、病院周辺の環境を改善し、本院をご利用頂く方々に最適な環境で過ごして頂けるよう努めて参りますので、今後とも、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



（総務課）

新大病院たより「和」のバックナンバーは本院ホームページ
（<http://www.nuh.niigata-u.ac.jp/>）をご覧ください。

発行 新潟大学医歯学総合病院
広報委員会広報誌編集部会

（お問い合わせは総務課総務係 電話227-2407, 2408まで）